

はやしだより

2026年春発行 広報紙 第50号

公益財団法人 林精神医学研究所
 附属林道倫精神科神経科病院
 〒703-8520
 岡山市中区浜472番地
 TEL 086-272-8811
 FAX 086-273-9944
 Mail hama472@po.harenet.ne.jp
 ホームページ
<http://www.hayashi-dorin.or.jp/>



病院理念

その人らしく生きられるように
共に支えあいます

基本方針

- 1、「心の病」の予防、治療、リハビリに取り組みます。
- 2、人権を尊重し、安全・安楽・信頼の医療に努めます。
- 3、地域と連携し、誰でも安心して暮らせる地域づくりに努めます。

3年連続開催 高校でこころの健康授業



▲ 講義する原医師(右)
真剣に話を聴く生徒の皆さん▶

1月13日に、岡山操山高等学校でこころの健康授業を1年生270名を対象に行いました。2023年度より3年連続での開催となりました。授業のテーマは「当事者の話を聴いてこころの不調時の対処法を知ろう」です。

授業の導入は原医師の講義からで「こころの病気はとても身近なもの。しかし日本は世界に比べ心の病気のある方と関わった経験が極端に少ないこと。そこには偏見や言いづらさがあること」を紹介。その後、デイケア通所中でピアサポーターとしても活動されている二人の当事者から体験談を語っていただきました。発病以前からの人生、苦しく孤独だった日々、そして様々な人との出会い、自身の変化、現在の夢、高校生へのメッセージ。直接当事者から体験談を聞くことで、教科書の中の話ではなく、生活の中の地続きのこととして感じられたのではないかと思います。

最後に原医師から「大切な人の心の不調のサインに気付き共感する大切さ、セルフケアのポイント」「専門の相談場所」を紹介。事前に生徒から募集した質問にも「落ち込んでいる友達(家族)にかけた言葉はよかったのだろうか」というものも複数あり、授業後に個人的に先生に相談に来る生徒もいました。すでに生徒達にはメンタルヘルスの課題が日常にあることを実感します。当院でも思春期の受診が増えています。この授業を通して身近な相談場所としての発信と生徒たちのメンタルヘルスリテラシーの向上の一助となれたらと思います。そして、私たち医療機関が地域でできる役割を今後も様々な機関と連携し発信する取り組みをしていきたいと思ひます。

(地域医療部長・精神保健福祉士 杉山 はるか)

当院はお金のあるなしにかかわらず 安心して受診していただける病院です

● 無料・低額診療事業を実施しています ● 差額ベッド代は頂いておりません

林病院は、患者さんの受療権を守る取り組みとして、無料・低額診療事業(無低診)を実施しています。無低診を適用されますと、当院の医療費が無料または低額になります。経済的な理由で医療費の支払いが難しい方、お気軽に相談室または受付までご相談ください。適用にならない場合でも解決策と一緒に考えていきます。

また、「命は平等である」との考え方から、差額ベッド代も頂いておりません。



院内での学習会で、スライディングボードを使用した移乗のデモンストラーションを行っている様子です。

患者様を持ち上げず、スライディングシートを使って横へ滑らせて移乗します。



安全を守り
ケアの質を向上させる

ノーリフトケア
の取り組み

当院では、患者様と職員双方の安全を守り、ケアの質を向上させるため、人力で「持ち上げない・抱え上げない」ノーリフトケアを推進しています。プロジェクト発足以来、私たちは身体への負荷を軽減する福祉用具の導入と、専門知識の習得に継続的に取り組んできました。

具体的な取り組みとして、移乗をサポートするスライディングボードやシートの活用、入浴時に微細泡で洗いを助けるウルトラファインバブル発生装置の導入の検討をすすめています。また、定期的な研修会を通じて、患者様の自然な動きを活かした自立支援型の技術を磨いてまいりました。

これらの活動により、職員の腰痛リスク低減だけでなく、無理な力がかからないことで患者様の「肌への摩擦」や「緊張」が緩和されるなど、ケアの質においての成果が得られることを目指しています。ケアを「される側」も「する側」も笑顔になれる、安心できる療養環境づくりにこれからも邁進してまいります。

(中3病棟・看護師長 木村 理穂)

地域で生活できることを目指して 退院支援の取り組み

中3病棟（精神療養病棟）では数年来、長期に入院されている患者様の退院支援により力を入れてきました。担当医師、受持ちスタッフや作業療法士、ソーシャルワーカーでチームを組み、患者様本人の強みに注目しながら、精神的な症状があっても退院して地域生活が送れることを目指して日々支援しています。

一方で、病棟スタッフだけでは支援の視野が狭くなることもあり得るため、近年では障害福祉サービスの中に位置づけられている「地域移行支援」を利用し、地域の相談支援専門員に入院中から支援に加わってもらいながら退院に向けて取り組むケースも増えました。実際に地域移行支援を活用することで、支援の柔軟性や選択肢の幅が広がったと感じます。地域のスタッフも含めてご本人の意思決定について一緒に考えることができるため、意思決定の過程により伴走できるようになりました。

2024年からは、ピア(※)の力に注目した取り組みを始めました。中3病棟で長期入院を経て退院した方や担当の地域支援者の方、こころの健康センターのピアスタッフの方をゲストとしてお招きし、入院中の方に向けて経験談を紹介していただいたり、質問に答えていただく機会を通して相互に交わることができています。患者様からは地域生活に対してのイメージを持つことに繋がったなどの感想をいただきました。病棟スタッフとしても「たとえ症状があっても、退院してその人らしく生活することができる」という希望をより持つことに繋がっていると感じています。私自身も、担当した方がそれぞれ地域で新たな人生を送っている姿を拝見すると、とても嬉しく励まされる気持ちになります。

今後も病棟に携わる他職種それぞれが協働しながら、その人らしく地域で生活が送れることを目指して支援していきたいと思えます。

（相談室・精神保健福祉士 上村 真実）

※ピア…

ピア=peer：仲間。障害のある方が病気や障害の体験を活かして、他の障害のある方の相談に乗ったり、同じ仲間として交流したりする活動のこと。



新入職員 が入職しました♡



当院は、今年度も新たに16名の新入職員を迎えました。入職日から、3回に分けて財団の歴史や精神科医療について、接遇・マナーなどの研修を集合して行っています。各部署でも、新入職員の研修を行っており、フレッシュな姿に先輩職員も刺激を受けています。新しい職員を迎え、今年度も頑張っ参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



院長から辞令を受け取りました！

研修で先輩職員と一緒に📷



デイケアロールアート展示会を 天神山文化プラザで行います



アルコールデイケアに通所している皆さんが、プログラムの中でロールアートの作品をずっと作って院内に展示しています。来院される方から「すごい出来栄」「もっと多くの人に知ってもらったら」などの声を頂き、下記の日程で院外展示会をすることになりました。「アルコール依存症について」「ロールアートができるまで」の展示も行います。ぜひ足をお運び下さい。

期間：2026年6月16日(火)～6月21日(日)

10:00～15:00

場所：天神山文化プラザ 第4展示室

ロールアートとは…

紙などをくるくる巻いたパーツ(ロール)を組み合わせて作る装飾アートで、立体感や模様的美しさを表現できるハンドクラフトです。

作品を制作した当事者も来場します。



診察のご案内

入院対応

入院のご相談は、地域連携室へご連絡ください。
夜間・休日も対応しています。
☎086-272-8811

外来通院

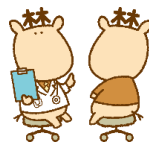
外来通院のご相談は「林病院けやき外来」へご連絡ください。
9:00～17:00 月曜日～金曜日
9:00～12:30 土曜日
☎086-272-8570

デイケア・ナイトケア

9:00～20:00 月曜日～土曜日

重度認知症患者デイケア(わたぼうし)

9:30～15:30 月曜日～土曜日



当院へのアクセス



- JR西川原駅より 徒歩13分
- JR岡山駅より
岡電バス：藤原団地行「宇野団地入口」下車西へ徒歩2分
宇野バス：高島団地・雄町・東岡山行「林病院前」下車 西へ徒歩2分

